

農作物技術情報 第4号の要約

平成21年 6月26日発行
岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

作目	技術の要約
水稲	<p>6月25日現在の水稲の生育は平年より1～2日程度遅れ、茎数はやや不足気味です。茎数が不足しているところでは、分けつを促す浅水管理を継続し、目標とする茎数を確保したら、すみやかに中干しを実施して根の健全化を図りましょう。</p> <p>幼穂形成期頃から徐々に深水管理を開始して、冷害回避のための水管理を徹底しましょう。</p> <p>斑点米を発生させるカメムシ類の増殖を防ぐため、畦畔や転作地等のイネ科植物が出穂しないよう草刈りを徹底しましょう。</p>
畑作物	<p>小麦 県中南部では収穫適期を迎え、刈取作業が始まっています。子実水分を確認し、適期刈り取りに努めましょう！また、倒伏圃場や品質に問題があるものは刈り分けし、良質な小麦に混入しないよう注意しましょう。</p> <p>大豆 中耕は初期除草剤(土壌処理剤)の効果がなくなり、雑草が発生し始めてから行いましょう。培土は倒伏防止や、根系への酸素供給などに効果があります。収穫時に土を噛み込まないよう培土の高さは一定になるよう作業を行いましょう。</p>
野菜	<p>ハウス果菜類 雨よけトマトは収穫が始まりました。生育のバランスを保つため適切なかん水、施肥に努めましょう。灰色かび病の発生が見られますので、換気を心がけましょう。</p> <p>露地果菜類 露地きゅうりの収穫が始まっています。整枝、摘葉により受光体勢を良好に保ちましょう。また、早めの病害虫防除を行いましょう。</p> <p>雨よけほうれんそう 生育は概ね順調ですが、天候の変化による萎れや土壌病害も見られています。生育中かん水も含めて高温対策を十分講じ、生育停滞を防ぎましょう。</p> <p>露地葉菜類 キャベツでは害虫の発生に引き続き注意が必要です。レタスは高冷地からの出荷が本格化してきました。適期作業により品質の低下を防ぎましょう。</p>
花き	<p>りんどう 露地栽培極早生品種の出荷が始まっています。全般的には草丈・節数はおおむね平年並みとなっています。葉枯病、ハダニ類などの病害虫防除を徹底しましょう</p> <p>小ぎく 白さび病、ハダニ等の病害虫防除を徹底しましょう。また、収穫前に次年度用の健全な母株を選抜しましょう。</p> <p>りんどう・小ぎく共通 ほ場乾燥が続く場合は早めにかん水しましょう。また、圃場の排水対策を実施し、湿害を回避しましょう。切り前・選別基準の遵守により、揃った品質で出荷しましょう。</p>
果樹	<p>りんご 果実肥大は総じて順調です。7月は翌年の花芽分化期に入りますので、花芽形成を促進するため、早期適正着果等適期栽培管理に努めましょう。</p> <p>ぶどう 開花期間中がぐずついた気象条件で経過したため、結実への影響が懸念されています。結実を十分に確認のうえ、状況に応じた適切な着果管理を進めましょう。</p>
畜産	<p>牧草・トウモロコシ</p> <ul style="list-style-type: none">・2番草も刈り取り時期は適切に、刈り取り高さ気をつけて収穫しましょう。・エゾノギシギシの防除は、結実前に行いましょう。・飼料用トウモロコシ獣害(クマ)対策として電気柵の準備をし、出穂(8月上旬)前に設置しましょう。

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報

第4号

水 稻

発行日 平成21年 6月26日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

6月25日現在の水稻の生育は平年より1~2日程度遅れており、茎数はやや不足気味です。

茎数が不足しているところでは、分けつを促す浅水管理を継続し、目標とする茎数を確保したら、すみやかに中干しを実施して根の健全化を図りましょう。

幼穂形成期頃からは徐々に深水管理を開始して、冷害回避のための水管理を徹底しましょう。

斑点米を発生させるカメムシ類の増殖を防ぐため、畦畔や転作牧草等においてイネ科植物が出穂しないよう草刈りを徹底しましょう。

1 生育概況

6月25日に各農業改良普及センターが実施した水稻の一斉生育調査(24カ所、延べ41品種)の結果、県全体で草丈は平年より1.2cm短い35.4cm、1m²あたりの茎数は平年比93%の391本、葉数は平年より0.2枚少ない8.1枚となっており、葉数の進捗からみた生育は1~2日程度遅れています(表1)。

表1 平成21年生育診断ほの地域別集計表(6月25日現在)各農業改良普及センター調べ

地帯名	草丈			茎数			葉数		
	本年 (cm)	平年 (cm)	平年差 (cm)	本年 (本/m ²)	平年 (本/m ²)	平年比 (%)	本年 (枚)	平年 (枚)	平年差 (枚)
北上川上流	36.3	38.6	-2.3	390	436	89	8.3	8.5	-0.2
北上川下流	37.2	38.0	-0.8	477	460	104	8.6	8.7	-0.1
東 部	32.8	32.5	0.3	313	413	76	8.1	8.5	-0.4
北 部	33.0	34.9	-1.9	318	368	86	6.9	7.3	-0.4
全 県	35.4	36.6	-1.2	391	420	93	8.1	8.3	-0.2

注：平年値は原則として平成16年~20年までの5か年の平均値を用いた。

表2 平成21年生育診断ほの品種別集計表(6月25日現在)各農業改良普及センター調べ

品種名	草丈			茎数			葉数		
	本年 (cm)	平年 (cm)	平年差 (cm)	本年 (本/m ²)	平年 (本/m ²)	平年比 (%)	本年 (枚)	平年 (枚)	平年差 (枚)
いわてっこ	35.1	35.9	-0.8	364	418	87	7.1	7.4	-0.1
あきたこまち	34.7	35.6	-0.9	367	403	91	8.3	8.5	-0.1
どんぴしゃり	36.3	37.3	-1.0	444	419	106	8.5	8.7	-0.3
ひとめぼれ	36.6	38.3	-1.7	470	495	95	8.8	9.1	-0.2

注：平年値は原則として平成16年~20年までの5か年の平均値を用いた。

2 浅水管理の継続で分けつ促進（茎数がまだ不足している圃場）

茎数が不足している地域でも6月第5半旬の好天経過により、生育は回復傾向で、目標となる茎数（目標とする穂数とほぼ同数）を確保したところもみられてきました。

茎数が不足している圃場では、浅水管理を継続し、分けつの発生を促しましょう。

3 中干しの徹底で根の健全化（茎数を確保した圃場）

目標となる茎数に達したところでは落水し、中干しを実施しましょう。

中干しの効果

土壌の還元化をやわらげる 根の伸長促進・健全化
 無効分けつの発生を抑える
 地耐力の向上 秋作業の容易化

中干しの期間は7～10日程度とし、田面に小さな亀裂が生じて、軽く踏んで足跡の付く程度を目安とします。

中干しと同時に溝切りを行いましょう。排水を容易にし、収穫時の地耐力を高めるのに役立ちます。

中干し後、一度に深水にすると酸素不足となり根に障害が出ることがあるので、中干し直後は間断かんがいとし、その後常時湛水としてください。

4 冷害回避のための水管理

仙台管区气象台が6月25日に発表した東北地方の3か月予報によると、7月は平年と同様に曇りや雨の日が多く、一時、オホーツク海高気圧からの冷たく湿った東風の影響を受ける見込みです。

図1を参考にして、気象条件や生育ステージにあわせた冷害回避のための水管理を徹底してください。

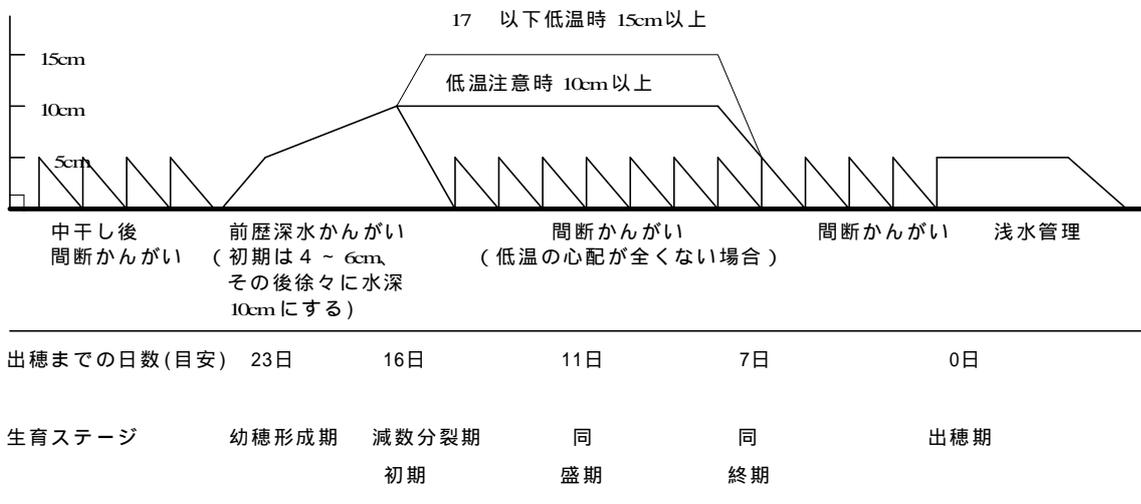


図1 中干し後の水管理の模式図

用水の供給体制の確認

土地改良区等と連携の上、用水の供給体制についてあらかじめ確認してください。

幼穂形成期前後（前歴深水かんがい）

現在の生育は平年より1～2日程度おくれていることから、幼穂形成期は平年よりやや遅れることが予測されます。

幼穂形成期の数日前から入水して幼穂形成期には4～6cmの深水にします(前歴深水かんがい)。幼穂を保護することで小孢子（花粉のもと）の分化が促進され、障害不稔を軽減できます。

平年の幼穂形成期

いわてっこ：7月10日頃、 あきたこまち・ひとめぼれ：7月15日頃

減数分裂期前後（深水管理の実施）

少しでも低温が予想される場合は、幼穂形成期の深水管理に引き続き、1.0cm以上の水深を確保してください。

17 以下の低温が予想される場合は、1.5cm以上の深水としてください。

5 追肥

良食味米生産の観点から、品種、気象・生育状況をみきわめて、適期に適量を施用しましょう。詳しくは各地域で発行される技術情報等を参考にしてください。

6 斑点米カメムシ類の防除

県病害虫防除所が実施した6月中旬の調査によれば、本年も畦畔や転作牧草のイネ科植物で斑点米カメムシ類が確認されています。

以下により、カメムシ類の増殖源となる畦畔等のイネ科植物の管理を徹底してください。

なお、養蜂活動が行われている地域で殺虫剤を散布する計画がある場合は、養蜂家と協議の上、散布時期を事前に通知するなど、ミツバチへの危害防止に努めてください。

畦畔や転作牧草等のイネ科植物が発生源

斑点米の発生原因となるカメムシ類（アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ）は、畦畔や転作牧草等のイネ科植物で繁殖します。

水稻出穂の15～10日前までに地域一斉に草刈りを実施

畦畔雑草は水稻が出穂する15～10日前までに刈り取ってください。

草刈りは、個別バラバラな時期ではなく、地域で一斉に実施してください。

水田内の雑草も増殖源となる

水田内にノビエ、イヌホタルイやシズイなどの雑草が多発している圃場では、これらの雑草がカメムシの発生源となりますので、水田内の除草に努めてください。



図2 アカスジカスミカメ成虫



図3 畦畔雑草管理は地域一斉に

7 いもち病防除

(1) 葉いもち

いもち病は気象条件で急激に広まるので、圃場の観察と早期防除を徹底してください。

圃場をよく観察し、発生を確認したら、葉いもち予防粒剤（箱施用剤、水面・投げ込み施用剤）施用の有無にかかわらず、直ちに茎葉散布を実施しましょう。

なお、補植用の取り置き苗でいもち病が平年並みに発生していますが、今現在も取り置き苗が放置されたままの圃場が目立ちます。取り置き苗でのいもち病の発病は、本田における葉いもちの多発につながるため、直ちに取置苗を処分しましょう。

(2) 穂いもち

穂いもち対象の予防粒剤を散布する場合は、次の点に留意してください。

- ・ 水稻の生育状況に注意する（散布時期を失しない）
- ・ 圃場をよく見回り、葉いもちが発生していたら茎葉散布してから粒剤施用する。
- ・ ストロビルリン系薬剤は耐性菌の発生リスクが高いため、嵐剤を箱施用した場合は、オリブライト剤を本田では使用しない。

8 農薬の安全使用

平成18年にポジティブリスト制が施行され、残留農薬基準の規制が強化されています。

基準値を超えた農薬が残留した農作物の流通は禁止されます。農薬の使用基準を遵守するとともに、これまで以上に周辺作物へのドリフト（農薬飛散）に注意しましょう。

9 異品種の混入防止

現在、全国的に異品種の混入が問題で、DNAの解析により米一粒からでも品種の判定ができるようになっています。

異品種が混入した米を出荷すると、産地のイメージを損ねることになります。

株間や条間などに生育している素性のはっきりしないような水稻があった場合には抜き取るなど、異品種混入を防ぐ管理に心掛けましょう。

次号は7月30日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

**6月1日～7月31日は
農薬危被害防止運動期間です**

近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
農薬の保管・管理は適切にしましょう

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第4号 畑作物

発行日 平成21年 6月26日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

小麦：県中南部では収穫適期を迎え、刈取作業が始まっています。子実水分を確認し、適期刈り取りに努めましょう！

また、倒伏圃場や品質に問題があるものは刈り分けし、良質な小麦に混入しないよう注意しましょう。

大豆：中耕は初期除草剤(土壌処理剤)の効果がなくなり、雑草が発生し始めてから行いましょう。

培土は倒伏防止や、根系への酸素供給などに効果があります。収穫時に土を噛み込まないように培土の高さは一定になるよう作業を行いましょう。

1 小麦

(1) 概況

県中南部では収穫作業が始まっています。7月上旬には県北部での収穫作業が始まるものと見込まれます。

(2) 収穫作業のまえに

適期をのがさず作業を行うには事前の準備が大切です。

ア コンバインや乾燥機などの点検整備や清掃を事前に行う。

イ カントリーエレベータや共同乾燥施設を利用して乾燥調製を行う場合は、受け入れ時間や荷受け水分を前もって確認する。

ウ 品質低下を防ぐために、事前に倒伏圃場や赤かび病の発生状況を確認し、どの順番で刈り取りを行うかチェックしておく。

(3) 収穫作業の注意点

ア 成熟期になったら、子実水分を確認し、概ね30%以下になったら速やかに刈り取りを行う。

イ 曇りや雨の日は子実水分の低下が滞るが、晴天には1日に2~2.5%程度低下する。

ウ 普通型コンバインでは35%前後から収穫ができる。

高水分小麦の収穫について

最近では自脱型コンバインの性能が良くなり、水分の高い小麦を収穫できるものもあります。しかし水分が高いと、収穫時に粒がつぶれたり、乾燥時に退色粒が発生したりする危険性があります。やむを得ず高水分での収穫を行う場合には、作業速度や回転数を抑え、丁寧な作業を行い、刈り取り後はできるだけ早く(1時間以内)乾燥作業に入りましょう。

(4) 乾燥について

収穫された麦をそのまま長時間放置すると、変質し異臭麦や熱損粒が発生します。刈り取り後はできるだけ早く乾燥機へ搬入しましょう。

乾燥機的能力にあわせて収穫作業をすすめ、速やかに乾燥を行いましょう。

- ア 送風温度は子実水分が高いほど低く設定する。子実水分35～30%で送風温度40以下、子実水分30%以下で送風温度45以下とする。
- イ 高温で急激に乾燥すると、熱損傷や退色粒が発生する可能性がある。
- ウ 水分が高いほどテンパリング時間は短く設定する。(子実水分30%前後では1時間以内)
- エ 乾燥機への張り込みは循環型乾燥機では容量の7割程度、平型では堆積の高さを20cm程度に抑える。
- オ ビンやサイロに一時貯留する際は、水分が17～18%程度になるまで1次乾燥してから貯留する。3～4日以内には仕上げ乾燥を行う。仕上がり目標は12.5%以下とする。

2 大豆

(1) 概況

今年大豆の播種作業は、順調に行われました。県北部では低温の影響で生育が遅れ気味ですが、県中南部では、出芽揃いも良く順調な生育を示しています。

(2) 中耕・培土

中耕培土には次のような効果があります。

- ア 雑草防除
- イ 倒伏防止
- ウ 土壌の通気性を良好にし地温を上昇させ根の機能を向上させる
- エ 発根を促進し、根群を発達させる
- オ 土壌の排水を良好にする

- ・ 中耕培土は、大豆の3葉期に実施することが一般的ですが、初期除草剤(土壌処理剤)の効果がなくなり、雑草が発生し始めたら早めに行いましょう。
- ・ 培土は収穫時に土を噛み込まないよう高さを揃え、根本まで土がかかるように行いましょう。

(3) 大豆バサグラン液剤

「大豆バサグラン液剤」は、大豆生育期に処理できる広葉雑草対象の除草剤ですが、利用の際にはいくつか留意する点があります。

- ・ 大豆の品種によっては薬害を大きく受ける場合があります。
- ・ 広葉雑草の光合成を阻害する作用を持っています。晴天が続くときに散布することで、効果的に使用することができます。
- ・ 水稲用のバサグラン液剤は使用できません。必ず大豆バサグラン液剤を使用してください。
- ・ アカザ科、ヒユ科、トウダイグサ科には効果が劣るので、これら雑草の優先する圃場では使用を避けます。
- ・ 剤の特性をよく理解し、適正に使用してください。

次号は7月30日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

**6月1日～7月31日は
農薬危被害防止運動期間です**

近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
農薬の保管・管理は適切にしましょう

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第4号 野菜

発行日 平成21年 6月26日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

ハウス果菜類 換気の徹底、適切な肥培管理・水分管理と病害虫防除を！
露地きゅうり かん水による土壌水分保持と生育に応じた整枝・摘葉管理を！
雨よけほうれんそう 天候の変化に応じた適切な管理を！
露地葉茎菜類 病害虫防除の徹底と計画的な作業により良品出荷を！

1 生育概況

- (1) ハウス果菜類は順次収穫が行われています。早熟作型のきゅうりは天候不順により出荷量が少なく、病害虫の発生も見られています。雨よけトマトは各地で収穫が開始しました。灰色かび病の発生がやや多めです。ピーマンの生育は概ね順調ですが、害虫の発生がやや多い傾向です。
- (2) 露地果菜類の定植は終了しました。露地きゅうりや露地ピーマンは定植後の天候不順により初期生育が遅れ気味となっています。
- (3) ほうれんそうの生育は概ね良好ですが、曇雨天後の晴天により萎れや葉焼けも見られています。タネバエやケナガコナダニの食害が見られるほか、各地で萎凋病等の土壌病害の発生が目立ち始めています。
- (4) 県北部でもキャベツの収穫は開始されました。虫害が多く見られているほか、乾燥の影響で小玉傾向となっています。平場地帯のレタスの出荷は終了し、県北部、高冷地からの出荷が行われています。ナモグリバエの被害は少なめですが、昨年よりすそ枯病や斑点細菌病が多くなっています。

2 技術対策

(1) ハウス果菜類の管理

ア 雨よけトマト

雨よけ栽培では、収穫開始時期を迎え草勢のバランスを崩しやすい時期に入ります。着果量や生長点付近の状態(生長点の大きさ、葉色、葉の巻き具合、茎の太さ)を確認しながら、適切な追肥やかん水により草勢を維持することがポイントになります。

特に、高温乾燥が続くと尻腐果の発生が目立ってきますので、今後、中段以降の発生を未然に防ぐためにかん水量に気を配るとともに「桃太郎なつみ」では他の品種よりかん水量を多めとし果実肥大を促します。

一方、梅雨期に入り降雨とともに灰色かび病や葉かび病の発生が多くなってくるので、サイドビニールやツマソーを開放するなどして十分に換気し、かん水は晴れた日の午前中に行うようにして、できるだけハウス内の湿度を高めないようにします。また、薬剤防除は灰色かび病やアザミウマ類、アブラムシ類の防除を基本とし、葉かび病の発生状況に応じて薬剤を選定し適期防除に努めます。

近年、葉かび病抵抗性遺伝子 Cf-9 を有する品種の導入が進んでいますが、Cf-9 品種を侵す葉かび病の発生が、「桃太郎サニー」や「桃太郎ギフト」で確認されています。また、葉かび病と症状が類似するすすかび病とは、肉眼で見分けることが難しく、葉に形成された分生子を顕微鏡で観察することが必要となります。



すすかび病(左)と葉かび病(右)

このため、葉かび病抵抗性品種であっても、耕種的防除やすすかび病など他病害との同時防除に努めるとともに、葉かび病に類似した症状が確認された場合は、最寄りの指導機関に診断を依頼することをお勧めします。

イ 雨よけピーマン

4本仕立ての整枝法は、第10分枝まで側枝3～4節摘心、第11分枝以降は2節摘心が基本です。側枝を伸ばして着果数を多くすると草勢が低下しやすくなるので、株の下まで光が当たるように側枝の摘心を行います。

特に「京鈴」は、収穫や整枝を遅れないこと、かん水と追肥は少量多回数を基本に行い、草勢を低下させないよう管理に努めます。

また、雨よけトマトと同様、今後乾燥が続くと尻腐果の発生が目立ってきますので、pFメーターによるを目安として水分管理を行い、水分不足に注意します。

一方、病害は灰色かび病が発生しやすい時期です。雨よけトマト同様こまめに換気を行いハウス内の湿度を高めないようにします。害虫は高温とともにアザミウマ類やハダニ類が多発してきますので、アザミウマ類は花の内部を、ハダニ類は葉の裏側をよく観察し適期防除に努めます。

ウ 夏期高温期の昇温抑制対策

夏期高温に備え遮光幕や塗布型遮光剤を利用した昇温抑制対策の実施を検討しますが、資材の種類により効果の持続性に差があるので考慮して利用してください(下図参照)。

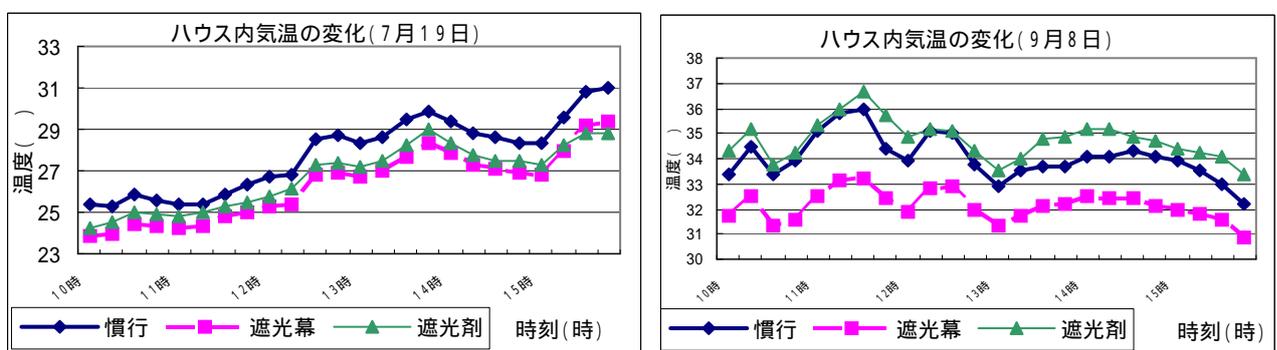


図 遮光幕及び塗布型遮光剤の温度抑制効果(農業改良普及センター実証結果より抜粋)

- 備考) 1. 塗布型遮光剤は平成18年6月19日に吹き付けし、遮光幕は同年6月29日にハウス一面を被覆した。
2. 遮光幕は長期間にわたり安定して温度抑制効果が高い。一方、塗布型遮光剤は吹き付け1ヶ月間位までの効果は高いが、処理約3ヶ月後には効果はみられなくなった。

(2) 露地きゅうり

本格的な収穫を迎える時期となりました。収穫量に応じた追肥とかん水で草勢を確保します。特に乾燥気味の圃場では、かん水や敷きわらなどで土壌水分の保持を図ります。また、1本仕立ての

場合の生育中期～盛期における基本的な整枝、摘葉管理は下表を参考に行います。

ただし、品種や草勢により管理技術は多少異なりますので、あくまでも目安としてください。

表 生育中期～盛期の整枝、摘葉方法（例）

	子づる	孫づる	整枝のポイント	摘葉のポイント	その他
上段	1節摘心	半放任とし、混み合った部分のみ摘心する	1. 親づるは、生育が順調な場合は支柱の肩の部分で止めるが、上段の子づるの発生が悪い場合、発生が緩慢な品種、親づるの心が小さい場合は遅く止める	1. 台木や穂木の子葉は摘除する 2. 病葉や老化葉を優先的に摘除するが、子づる、孫づるの生長点を覆っている葉を株当たり2～3枚/回を目安に除去する	放任枝とネット沿いに発生した子づるはテープナーでしっかり止めるが、それ以外の枝は誘引せずきゅうり全体に光が当たるよう樹を立体的に仕上げる
中段	2節摘心	1節摘心 ただし、草勢が弱い場合は早止めしない	2. 親づるの摘心後、草勢維持のため放任枝を2～3本残す。作業しやすいように腰～肩の範囲に子づるを張らせる。中段の子づるは収穫後1節残して切り戻す	3. 膝から下は摘葉し、通風を良くする 4. 親づるの摘葉は親づるの摘心後1ヶ月間を目安に終了する	
下段	1節摘心	1節摘心	3. 膝から下の子づる、孫づるは収穫後親節から切り戻す		

下段：～10節程度。中段：11～20節程度。上段：21節～

2本仕立ての場合は、主枝8～10節から発生する側枝を、1本伸ばします。それ以外の主枝10節までの側枝は1節摘心とし、主枝11節以降は2節摘心または半放任とします。

病害虫防除では、7月前半は斑点細菌病やべと病を、中旬以降は褐斑病、炭そ病等の斑点性病害の予防に重点をおきます。

なお、斑点性病害は薬剤散布による防除だけでなく、圃場内への蔓延を防ぐため疑わしい病斑が見られたら積極的に摘葉しましょう。

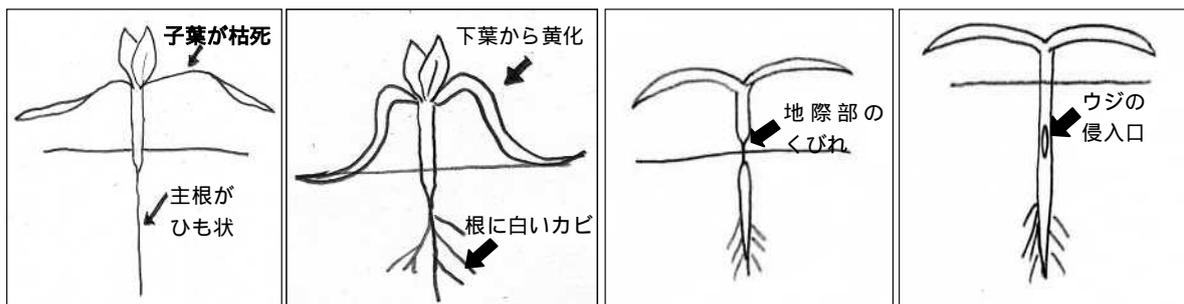
(3) 葉菜類の管理

ア 雨よけほうれんそう

県内では既に萎凋病を中心とした土壌病害の発生が各地で見られていますが、梅雨明けまでは曇雨天が続くことが予想されます。つま面のビニール除去や遮光資材等の利用による高温回避とあわせて、遮光のしすぎによる徒長にも注意しましょう。

ほうれんそうの生育には厳しい時期となりますので、各産地で選定している夏播き用の品種を利用して、必要に応じて生育中のかん水も行いましょう。

地上部が萎れる原因は病害によるものだけではありません。高温障害、土壌病害虫等の判断方法は下図を参照してください。



根腐病の症状

萎凋病の症状

高温障害の症状

タネバエによる被害

また、圃場内へ雨水が流入したりハウス内が過湿になることがないように圃場周囲の排水対策を確認しましょう。

この時期はべと病が発生しやすく、べと病に抵抗性のある品種でも発病する場合があります。ハウス内が過湿にならないよう換気に努めるとともに、株間を広くして風通しを良くし、被害株は随時抜き取り処分します。例年発病が多い圃場では有効な殺菌剤による予防散布を行います。

イ キャベツ

害虫の発生量が多く、県内の一部では被害が目立ちました。定植時の処理剤の利用を徹底するとともに、防除が遅れないように注意しましょう。特にコナガは薬剤抵抗性が発達しやすいので、系統の異なる薬剤によるローテーション散布を基本とします。

また、収穫を終了した圃場をそのまま放置すると害虫の発生源となりますので、収穫後は早めに圃場を整理しましょう。

結球期に降雨が続くと株腐病の発生が多くなります。結球開始期から株元にも十分薬液がかかるように散布してください。圃場の排水対策についても確認しましょう。

ウ レタス

気温の上昇、降水量の増加にともない、腐敗性病害の発生が多くなります。特に大雨が引き金になって病害が多発する場合がありますので、気象情報などを参考にして雨の前後の防除に重点を置きましょう。また、これから定植する作型では、排水の良い圃場を選んで作付けするようにしましょう。

高温期の過剰施肥は変形球や腐敗の発生を招きやすいので、施肥量を控えめにすると共に、適期に収穫して品質の向上に努めましょう。

収穫と定植作業が重なり労力負担が大きくなる時期ですが、適湿時にマルチを張り、早めの定植を心がけましょう。

エ ねぎ

生育に応じた追肥、土寄せにより葉鞘の伸長を促しましょう。特に早出しを狙う作型では、無理に土寄せすることで葉鞘が細くなりすぎないように注意しましょう。今後、気温の上昇、降水量の増加が予想されますので、圃場の排水対策を講じます。

また、大雨直後に土寄せを行うと、病害発生の原因にもなりますので注意しましょう。

次号は7月30日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

**6月1日～7月31日は
農薬危被害防止運動期間です**

近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
農薬の保管・管理は適切にしましょう

農作物技術情報 第4号 花き

発行日 平成21年 6月26日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- りんどう 葉枯病、ハダニ類などの病害虫防除を徹底しましょう
- 小ぎく 白さび病、ハダニ等の病害虫防除を徹底しましょう
収穫前に次年度用の健全な母株を選抜しましょう
- 共通 ほ場乾燥が続く場合は早めにかん水しましょう
圃場の排水対策を実施し、湿害を回避しましょう
切り前・選別基準の遵守により、揃った品質で出荷しましょう

1 りんどう

(1) 生育概況

露地栽培極早生品種の出荷が始まっています。春先の乾燥による影響で、やや草丈の短い圃場も見られますが、全般的には草丈・節数はおおむね平年並みとなっています。

葉枯病などの病害の発生は少なく推移していますが、ハダニ類やハモグリバエなどの害虫の発生が見られています。

本年の苗定植は、育苗もおおむね順調に経過し、ほぼ問題なく終了しています。

(2) 圃場管理

ア ネット上げ

フラワーネットの最上段が草丈の7割程度の位置となるように、こまめに上げて茎の曲がりの発生を防ぎます。また、ネットに葉が引っ掛かり曲がることも多いので、随時圃場の見回りを行い、修正してください。

イ かん水・排水対策

雨が少なく乾燥気味の場合には、極度に乾燥する前に通路等にかん水します。また逆に長雨や集中豪雨で圃場に滞水することで、根に障害が生じ生育不良となることや、上位節間が伸びて品質低下の原因となることがあるので、圃場に滞水しないよう排水対策を施します。

(3) 収穫・調製・出荷

ア 収穫

収穫は頂部の蕾が膨らみ色づいた頃が標準です。ただし、出荷先やバケツなどの輸送形態等により早めの収穫とする場合もありますので、事前に確認し仕向け先に合わせた切り前とします。

収穫は日中の高温となる時間帯をさけ、涼しい朝夕に行います。やむを得ず日中採花する場合は、収穫後直射日光に当たらないようにし、速やかに日陰に運び水揚げを行います。

株の消耗を防ぐため、必ず3本程度の茎を収穫せず残し、残った茎は残花部を折り取って種子が作られることによる消耗を防ぎます。また、残花部の折り取りはアザミウマ類や、アブラムシ類の被害低下へも効果的です。

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意下さい。

イ 乾燥

雨天時に収穫した場合や朝露がついている場合は、扇風機や切り花乾燥機を用いて必ず乾燥させます。濡れたまま結束したり箱詰めしたりすると輸送中の蒸れなどによる品質低下の原因となります。

水を切るため逆さにして振ることは、茎が折れることに加え、花の蜜が花弁や葉などに付着して品質低下の原因となる場合があるので極力避けます。

ウ 選別

花段数、長さ、太さ、曲がりなどを基準に選別します。出荷規格を遵守し、信頼を落とさないようにします。病害虫の被害があるものは出荷しないことを基本とします。

また、暗い作業場での選別作業は病害虫痕の見落としなど品質の低下につながることに加え、作業者の目が疲れ作業性の低下や疲労が増大することとなります。りんどうの選別は花段数の確認等で目を酷使しています。作業場全体と選別を行う作業台の明るさを十分確保します。

エ 調製・水揚げ

選別調製後、規格別に10本束にして水揚げを行います。

束とする10本の切り前や品質が揃うよう留意します。水揚げが長時間になると輸送中に蒸れることがあるので、極端に長い時間(24時間以上)の水揚げは控えます。

21年度から出荷箱のサイズが、従来に比べ長さが10cm短くなっています。これに伴い標準出荷規格が一部変わっています。極晩生種等の2L規格が長さ85cmとなるので、各地域の目揃会等で規格を確認のうえ出荷してください。

オ 箱詰め

各部会等で決められた方法で箱詰めを行います。内容物が輸送中に動いて傷むことがないように確実に固定します。

(4) 病害虫防除

ア 葉枯病

これまでのところ下位葉部分に発生が見られていますが、発生は少なく推移しています。降雨により急激に増加し、中上位葉まで発生することが多いので、定期的に薬剤散布を行い、初期防除に努めます。薬剤散布は降雨前に行うことが理想ですので、気象情報を確認しながら効果的な防除をおこないます。

イ 褐斑病

7月下旬まで重点的な防除を継続します。早生種では収穫時期が近いので、葉の汚れに注意し、ダコニール1000+展着剤または、ストロビーフロアブルを使用します。葉枯病との同時防除とする場合はダコニール1000を選択します。



ウ アザミウマ類

蕾がふくらみ着色が始まる頃から蕾に侵入し、花弁を吸汁する被害が見られます。蕾の中にはいると薬剤がかからず、大量に増殖して被害が大きくなりますので、侵入を防ぐよう寄生前の予防に努めます。

写真1 褐斑病

アザミウマ類は雑草を含むあらゆる植物に寄生するので、周辺の作物の防除、雑草の処理を必ず行ってください。

また、着蕾期前にシルバーの反射テープを支柱上部に張ることで、アザミウマの発生が大幅に減らすことが可能な現地事例があります。さらに、残花茎でのアザミウマの増殖を抑えるために、開花収穫後の残花茎は折り取り処分することが効果的となります。



写真2
反射テープによるアザミウマ防除

エ ハダニ類

高温・乾燥期に発生が多くなります。葉の裏側に寄生するので、葉裏を観察して発生初期に防除を行います。薬剤散布は散布量を十分に、葉の裏側を洗うように散布すると散布むらも無くなり効果が高まります。

なお、ダニ剤の使用においては同系薬剤の1年1回使用を基本に、抵抗性の発現を避けてください。

オ リンドウホソハマキ

越冬世代の羽化・産卵が平年より早まり、その後の茎への潜入により被害の発生が見られます。地域での発生消長を確認して適期防除をします。



写真3
ホソハマキの茎への潜入痕

2 小ぎく

(1) 生育概況

定植後の乾燥で草丈がやや短く不揃いも見られますが、ほぼ平年並みの生育となっています。地域によりナモグリバエ、ハダニ類の発生が多く見られます。

(2) 土壌水分管理

雨が少なく圃場が乾燥すると側枝の伸長不良や開花遅れの原因となるので、極度に乾燥する前に水を与えます。また逆に梅雨期の長雨や夏秋期の集中豪雨などに備え、排水溝の整備を行います。キク類の根は滞水に弱いので特に注意が必要です。

(3) 下葉取り

蕾が見える頃になったら、地際から2.5cm程度の葉を掻き落とし、通風をよくすることで、病害発生の抑制、収穫作業の効率化をはかります。

(4) 親株の選抜

次年度用苗の採穂に使用する親株は、収穫後では形質や病害感染が確認できないので、収穫が始まる前に次の点に留意して親株の選抜を行い、目印を付けておき、収穫後に親株とします。

ア 草丈が十分に伸び、草姿が優れる

イ 開花期が目的の時期に合う

ウ 病虫害（特にウイルス、ウイロイド）に侵されていない

エ 株の生育・充実状態が揃っている

なお、わい化病やキクえそ病に感染した株や、発生株周辺の感染のおそれのある株は必ず抜き捨てて圃場に残さないことが被害拡大防止の基本です。

(5) 収穫・調製

りんどうと同様に、切り前や作業時の環境に留意して収穫・調製を行います。

小ぎくでは、花卉が着色して爪立ちとなった頃が収穫適期となりますが、出荷時期や出荷先、品種によって異なる場合もあるので、仕向け先にあわせた適正な切り前を確認し、調製します。

(6) 病害虫防除

今年は、白さび病、ハダニ類、ナモグリバエなどの病害虫が発生しています。発生前の予防、発生初期の防除を心がけてください。

ミカンキイロアザミウマ等が媒介するキクえそ病(TSWVによる)などのウイルス病が見られるので、アザミウマ類等の害虫防除を徹底します。圃場内外の雑草が各種害虫の増殖源となるので、雑草防除も必ず行ってください。

(7) 病害株の抜き取り

キクに発生するわい化病(キクわい化ウイルス) キクえそ病(TSWV)に感染した株は薬剤散布などで治療ができないことから、健全株への伝染源や、母株とすることでの翌年の栽培への発病株の広がり等の原因となるため、見つけしだい抜き捨てることを徹底してください。

3 その他花き

(1) トルコギキョウ

生育に応じてかん水を控えて締まった草姿を目指します。また施設の温度、肥培等の管理を適正に行い、生育量確保を図るとともに、生育障害発生を抑制します。

(2) アルストロメリア

秋の開花を充実するためには夏期間は収穫を休み、株充実のため花蕾摘除、葉芽・枯れ茎の整理を行います。品種によって量は異なりますが、夏期は肥料・かん水が過剰にならないよう少なめに管理し、地温を下げるために、遮光や地冷を行います。

また、株養成中にオンシツコナジラミが発生することがあるので、適宜防除を行います。

(3) ユリ類

抑制作型では遮光を行って地温低下を図りますが、梅雨期等日照が少ない時期はできるだけ日照を確保するよう遮光率の低いものに換えたり、遮光資材をはずしたりすることも必要です。

(4) ストック

7月下旬が無加温作型のは種期です。育苗管理では、施設の気温上昇を抑制すること、苗の生育を揃えるため均一で適切な水分状態を保つことがポイントです。

気温上昇抑制のためには施設を遮光資材で覆うほか、育苗箱を直管やブロックなどで作ったベンチ等に置き、風通しをよくすることや、周辺に散水することなども有効です。ただし遮光資材は育苗後半や曇天時には、除去して徒長を防ぎます。

かん水は、一時に多量にかん水すると胚軸の徒長を招くので、少量ずつ回数多く行います。

八重鑑別は播種後3～5日の発芽揃い時、子葉展開時、定植直前の3回に分けて行います。

(5) パンジー

秋出荷作型では7月下旬以降が種期となります。パンジーの発芽は高温で抑制されるので、ストックと同様に育苗環境整備、冷蔵庫の利用等により成苗率の向上、徒長防止を目標とします。遮光は適宜調節し、日照を確保してください。

次号は7月30日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

**6月1日～7月31日は
農薬危被害防止運動期間です**

近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
農薬の保管・管理は適切にしましょう

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報

第4号

果 樹

発行日 平成21年 6月26日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

りんごは、翌年の花芽形成を促進するため、適期栽培管理を進めましょう！
ぶどうは、結実を確認のうえ、状況に応じた適切な摘房、摘粒を進めましょう。

りんご

1 生育状況

県内の定点観測調査結果によると、開花期は好天で推移した地域が多く、一部で結実が思わしくない地域・品種もありますが、総じて平年の着果量は確保されたと思われます。しかし、地域やほ場によっては、凍霜害などの影響によりさび果や奇形果の発生も若干見られています。

果実の肥大(横径)は、開花期が平年より早まり、開花期間中も好天に恵まれ、それ以降の気象経過も比較的順調に経過したことから、6月21日時点の県平均ではいずれの品種も平年比・前年比を上回っており(表1)、概して順調な生育状況となっております。

表1 県内の定点観測ほ場における果実肥大(横径)状況(6月21日時点)

(単位:mm)

市町村	地区	つがる(わい性樹)					ジョナゴールド(わい性樹)					ふじ(わい性樹)				
		本年(H21)	前年(H20)	平年	前年比(%)	平年比(%)	本年(H21)	前年(H20)	平年	前年比(%)	平年比(%)	本年(H21)	前年(H20)	平年	前年比(%)	平年比(%)
岩手県農業研究センター		41.4	42.9	37.5	97	110	42.1	42.0	37.8	100	111	38.6	39.5	35.1	98	110
岩手町	一方井	34.3	35.1	32.9	98	104	35.0	36.8	34.0	95	103	32.8	34.3	30.7	96	107
盛岡市	三ツ割	40.0	36.8	36.9	109	108	39.7	38.4	38.1	103	104	35.6	36.0	33.9	99	105
紫波町	長岡	40.4	38.4	39.1	105	103	41.3	40.8	39.9	101	104	39.0	35.3	34.2	110	114
花巻市	中根子	45.3	43.1	37.1	105	122	45.7	44.6	40.9	102	112	40.9	41.4	34.5	99	119
北上市	立花	49.5	45.3	40.8	109	121	48.0	43.1	43.3	111	111	41.0	40.0	37.6	103	109
奥州市	前沢区稲置	47.8	42.9	41.1	111	116	43.3	42.3	42.2	102	103	41.4	40.1	37.4	103	111
	江刺区伊手	39.0	36.7	35.6	106	110	39.1	38.0	36.9	103	106	33.9	34.5	32.5	98	104
一関市	花泉町金沢	43.1	40.8	38.5	106	112	43.0	42.3	40.0	102	108	38.0	34.8	34.0	109	112
	大東町大原	40.1	41.0	36.5	98	110	40.5	38.5	37.4	105	108	39.5	35.7	33.0	111	120
陸前高田市	米崎	43.0	38.5	38.6	112	111	39.7	35.3	38.0	112	104	36.6	32.0	34.8	114	105
宮古市	崎山	37.3	31.9	35.0	117	107	37.7	36.6	37.3	103	101	36.5	33.3	33.3	110	110
岩泉町	乙茂	36.4	40.4	35.2	90	103	39.8	35.4	34.1	112	117	39.3	33.9	32.2	116	122
洋野町	大野下長根	31.0	25.3	28.6	123	108	30.5	25.3	29.0	121	105	28.2	23.3	26.6	121	106
軽米町	高家	33.0		32.8		101	29.9		35.0		85	29.0		28.9		100
二戸市	釜沢	34.5	34.2	35.4	101	97	32.9	36.9	36.7	89	90	31.7	32.7	31.5	97	101
県平均値(参考)		39.6	37.9	36.3	105	109	39.1	38.2	37.5	102	104	36.2	34.8	33.0	104	110

県平均値に農研センターのデータは含まれていない

2 花芽分化と管理

7月に入ると、りんごは翌年の花芽分化が始まります（表2）。着果過多や日照不足、高温乾燥などが花芽形成を阻害する要因になりますので、1.早期適正着果、2.徒長枝の整理などによる日照条件の改善、3.防除による健全な葉の維持、4.適正な土壌水分管理、に努めましょう。

(1) りんごの果実は、摘果作業が遅れると小玉果となる可能性が高くなります。表3の摘果強度に留意して、仕上げ摘果および着果量の見直しを進めてください。結実量の多い園地や樹は、特に摘果を急ぎましょう。

(2) 摘果のポイント

ア 三角実や扁平果など果形の悪い果実、病虫害果、さびなどの傷害果の摘果。

イ 「ふじ」で果台が極端に長いものや短いものは、斜形果の発生割合が高くなるので、できるだけ摘果します（図1）。

ウ 「ふじ」では、途中で肥大の止まる果実が出てくるので、随時見直しを行います。

表2 主要品種の花芽分化開始時期

時期	7月上	7月中	7月下
品種名	王林		
	陸奥・つがる		
		ふじ・ジョナ	

表3 主要品種の摘果強度

品 種 名	摘果強度
	わい性樹
紅玉	4～5頂芽1果
ふじ、つがる、王林、さんさ、千秋	5～6 "
ジョナゴールド、陸奥、北斗	6～7 "

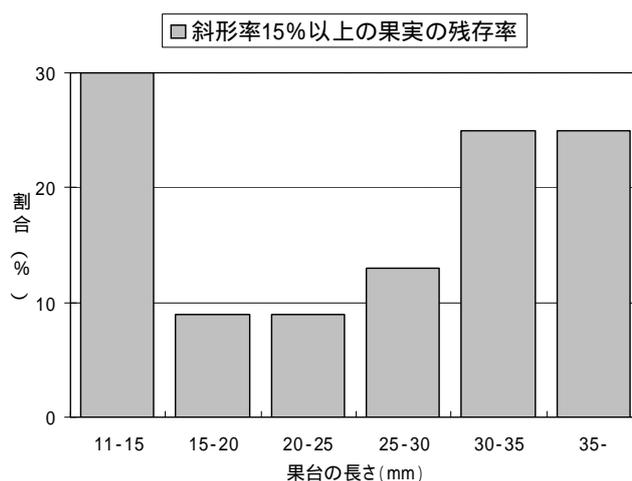


図1 枝長5～25cmの果そうに結実させた「ふじ」の果台の長さで斜形率15%以上の果実の存在割合（長野果試）

(3) 土壌水分管理

りんごの樹体にとって、土壌水分を適正に管理することが果実肥大、花芽の確保など健全な樹体の維持に有効です。

ア 乾燥対策

今後、夏季が高温、干ばつで経過する場合は、養水分の競合を避けるため草生を短く維持し、樹冠下に刈草やわら等でマルチします。また、畑地かんがい施設の整備が進められている地域では、適宜かん水を実施します。

イ 排水対策

降雨が続き、園地内が過湿となる場合、根部が障害を受けて樹勢が衰弱することがあります。園地内に水が停滞しないよう、溝を掘るなど排水対策を講じましょう。

3 樹相診断

樹相診断でりんご樹の栄養状態の良否を判断し、適正な肥培管理に活かしてください。特に「ふじ」の収穫時の果実品質は、今の時期の樹相の良否が大きく影響します（図2）ので、樹相診断を積極的に実施しましょう。

樹相診断の時期は6月下旬～7月上旬、調査項目は葉色、新梢長、新梢停止率、葉の大きさ、着果状態、樹冠内の明るさ等で、これらの調査結果から総合的に判断しますが、適正な樹勢の目安は表4となります。葉色の調査は葉色カラーチャートを用い、新梢長や新梢停止率は物差しで簡単に行えますので、実践してみてください。

(1) 強樹勢の対策

新梢長が長く、葉色も緑色が濃い強樹勢樹については、夏季剪定の実施、冬季剪定時は側枝の間引きを中心として結果枝を多めに残す、施肥量を減じるなどして樹勢を落ち着かせるよう管理します。

(2) 弱樹勢の対策

新梢の伸長が短く、葉色が極端に淡くなるなど弱樹勢樹については、着果量を減らし、冬季剪定で花芽の間引き、延長枝の切り戻し等を積極的に行い、施肥量を増やすなど樹勢の回復を図ります。

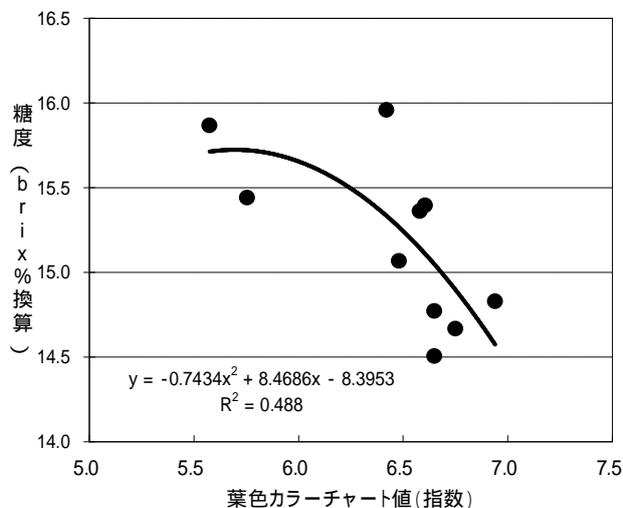


図2 同一ほ場における樹相診断時の葉色カラーチャート値と収穫時の非破壊選果機の糖度の関係

表4 生育の適正樹相のとらえ方(岩手県果樹指導要項)

診断時期	診断項目	診断の目安
生育期	新梢長	目通りあたりで30cm前後
	新梢停止時期	6月下旬～7月上旬で80%以上停止
	葉色	ややうすめの緑色、カラーチャートで5～6
	二次伸長	少ない

4 病虫害防除

今後気温が上がり、降雨が続くようになると、斑点落葉病や褐斑病、輪紋病、炭そ病等の感染が増えてきます。また、シンクイムシ類やハダニ類などの害虫も発生してきます。

病虫害防除所の発生予察情報や防除情報を参照し、園地の発生状況をよく観察して、適期防除に努めてください。

ぶどう

1 生育状況（表5）

定点観測地点（紫波町赤沢）の「キャンベル」の調査結果によると、発芽が早まったことを受けて、満開期も6月9日と平年より10日程度早まりました。しかし、開花期間中がぐずついた気象条件で経過したため、地域や品種によっては結実への影響が懸念されています。

新梢長、節数は順調に生育しており、6月25日現在で平年より7～10日程度生育が進んでいる調査結果となっています。

表5 ぶどう(キャンベルアーリー)の生育状況(定点調査地点:紫波町赤沢)

調査年次	生態			6月25日時点の生育		
	開花期(月/日)			新梢長 (cm)	節数 (葉数)	房長 (cm)
	開花始	満開期	落花期			
本年(H21)	6/5	6/9	6/14	121.7	15.1	14.3
平年(平均)	6/15	6/19	6/22	96.6	12.5	12.3
前年(H20)	6/10	6/12	6/19	106.6	13.1	13.1
平年差・比	-10	-10	-8	126%	121%	116%
前年差・比	-5	-3	-5	114%	115%	109%

2 管理の要点

(1) 摘粒

- ・果粒肥大を促し、裂果や病害の誘発を防ぎ、着色向上など品質確保に不可欠な作業です。
満開後30日以内に終了するのが目標です。
- ・「キャンベル」、「ナイアガラ」、「サニールージュ」は1果房当たり70粒程度とし、二つ折りになる状態を目安に行いますが、縦に1～2列(2列の場合は表側1列と裏側1列)摘粒する方法や段抜きなどの簡便法もあります(図3)。
- ・「紅伊豆」、「ハニーブラック」は1果房当たり30～40粒、「安芸クイーン」は25～30粒とします。最上位に4粒程度着粒させ、下部に行くほど徐々に着粒数を減らし、下端は1粒となるようにします(図4)。

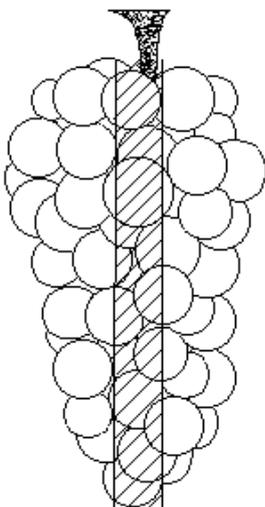


図3 「キャンベル」、「ナイアガラ」等の摘粒方法(2列抜く場合は、表と裏を1列ずつ抜く)

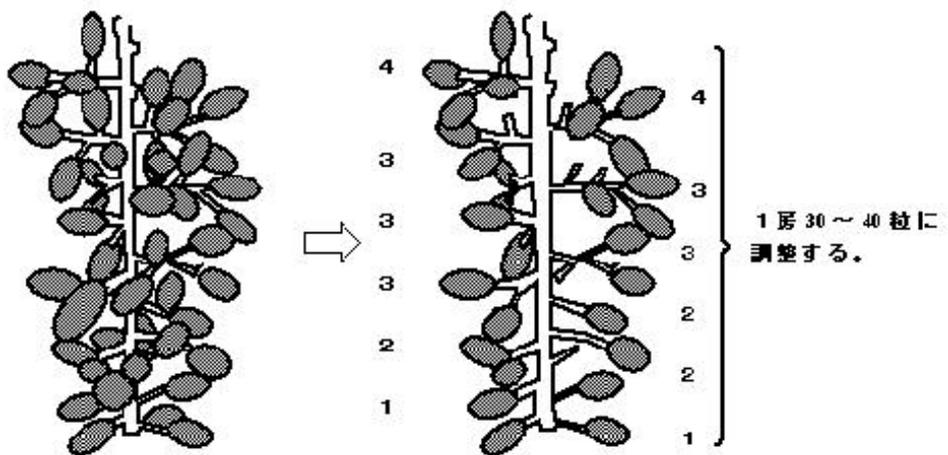


図4 「紅伊豆」の摘粒方法

(2) 袋掛け

- ・時期は7月上旬以降できるだけ早い時期が良く、摘粒などが遅れる場合には、晩腐病の一次感染期を逃さずに防除し、その後、袋かけを行うことが大切です。

(3) 摘房

- ・「キャンベル」では、表6を参考に葉数に応じて着房数を決定してください。最終的には一坪(3.3m²)当たり、新梢数20本、着房数27~30房が基準となります。樹勢が弱い場合は、1房あたりに必要な葉数を参照に、葉数に応じて着房数を制限して下さい。
- ・「紅伊豆」、「ハニーブラック」、「安芸クイーン」などの大粒種では、1新梢1房が基本です。強い新梢は、1新梢2房着果させておき、着色期前までに1房に摘房していきます。弱い新梢は、早期に1新梢1房とし、同様に着色期をめぐり、伸長の程度に合わせて2~3新梢1房に調整していきます(図5)。
- ・着色期以降も着果が多いままだと、着色や糖度上昇が遅れ収穫も遅れる他、樹体の凍寒害の危険が増しますので十分に注意してください。

表6 「キャンベル」の収量構成要素

品種	新梢数 (本/坪)	着房数		必要な葉数	目標収量 (kg/10a)
		(房/坪)	(房/本数)		
キャンベル	20	27~30	1.35~1.5	1房:12~16枚 2房:17~22枚	2200

新梢の 勢力	作業時期		
	開花期	着色期	収穫期
強	摘穂 (第3~4花穂)	摘房 (第1または第2房)	
中	摘穂 (第3~4花穂)	摘房 (第1または第2房)	
	摘穂 (第3~4花穂)	摘房 (第1または第2房)	
弱	摘穂 (全部)	(空枝)	

図5 「紅伊豆」の新梢の強弱と摘穂・摘房時期

3 病虫害防除

- (1) 病虫害の発生状況に合わせて防除を実施します。
- (2) 薬剤によっては、果粉の溶脱、果面の汚れなど品質を損ねることがありますので、薬剤を選択する際は注意してください。

次号は7月30日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

**6月1日~7月31日は
農薬危被害防止運動期間です**

近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
農薬の保管・管理は適切にしましょう

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第4号 畜産

発行日 平成21年 6月26日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 019-688-5525)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

牧草・トウモロコシ

- ・2番草も刈り取り時期は適切に、刈り取り高さに気をつけて収穫しましょう。
- ・エゾノギシギシの防除は、結実前に行いましょう。
- ・飼料用トウモロコシの獣害(クマ)対策の準備をしましょう。

1. 草地管理(2番草)

(1) 刈り取り時期

2番草以降の刈り取りは、前回の刈り取りから40~55日で行います。

梅雨時期は土壌や牧草も水分を多く含んでおり、このような状況下で高温になると、牧草が蒸れあがる原因となりますので、早めの刈り取りに努めましょう。

(2) 刈り取り高さ

梅雨明け後は急に日射量が多くなり、草地も強い日差しを受けます。すると、地面の温度が上昇し、根が高温障害を受けやすくなりますので、刈り取り高さは10~15cm程度の高刈りとし、根を直射日光から保護しましょう。

(3) 追肥

施肥量は10a当たり窒素成分で3~5kgとし、刈り取り後できるだけ早く追肥を行いましょう。

なお、夏場の尿散布は濃度障害を起こす恐れがあるため、水で2倍以上に希釈し、降雨前後に散布しましょう。

2. 牧草地の強害雑草対策(エゾノギシギシ)

エゾノギシギシは草地において最も問題となる強害雑草です。

種子と根茎により繁殖し、1株あたりの種子数は約3~4万粒と極めて多く、土中に埋没した種子も長期間発芽能力を有します。

耕種的防除対策としては、種子を圃場に持ち込まない、結実させない、埋土種子を地表に戻さない、根茎を切断しないことです。

除草剤による防除としては、この時期はハーモニー75DF水和剤を茎葉に散布することが有効です。ギシギシの葉が展葉してから散布しましょう。ただし、散布後21日間は採草や放牧を行ってはいけません。また、クローバに対しては薬害を生じる恐れがあるので注意が必要です。

農薬を使用する前には必ず「ラベルの確認」をしましょう。

3. 飼料用トウモロコシの獣害(クマ)対策

飼料用トウモロコシのクマ被害防止

近年、岩手県内において飼料用トウモロコシのクマ被害が多数発生しており、収量の低下やトウモロコシの作付けを中止する事例が見られ、対策が求められています。クマによる被害を未然に防止し、収量の確保に努めましょう。

現在、トウモロコシ畑へのクマの侵入を防ぐためには、電気柵を設置することが最も効果的とされています。

クマは一度味をしめた作物やその場所に対して強く依存するため、被害を受ける前に設置することが重要です。近隣圃場での被害発生情報があれば、未然に防止するためにも電気柵を設置することをおすすめします。

電気柵の適正設置

電気柵は電気ショックを経験させて、動物の心理的バリアーにより柵に近寄らせない柵です。柵の強度自体はそれほど強くなく、適正に電気が流れているかが重要となります。

(1) 電気柵の設置時期

クマはトウモロコシの子実を好んで、圃場内へ侵入します。トウモロコシの出穂前（7月下旬～8月上旬）には設置を完了します。

(2) 漏電の防止

電気柵は草などに触れて漏電すると効果が劣りますので、栽培地周囲の電柵設置場所にも除草剤散布を行いましょう。

また、しっかりとアースを設置するほか、設置後も定期的なチェックを行い、漏電による電圧低下を防止しましょう。

電気柵設置コスト

市販メーカー取り扱いの獣害対策用の電気柵セットは電柵機の種類にもよりますが、1ha用（外周400m・2段張り）で約50,000円（電池式）～80,000円（ソーラー式）ほどです。

また、支柱等、自己調達可能な資材を使用することで設置コストはさらに低減可能です。

被害が大きな圃場では

度々、侵入される圃場では、メインの電気柵の外側にも電気柵を2重に設置（トリップ仕様）することで効果が高まります（写真参照）。

電気柵設置に係る詳細と相談は最寄りの農業改良普及センターまでお問い合わせください。



写真：スタックサイロに設置された電気柵（トリップ柵付き）（県内事例）

次号は7月30日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

**6月1日～7月31日は
農薬危被害防止運動期間です**

近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
農薬の保管・管理は適切にしましょう